

呼吸器外科

【概要】

呼吸器外科では胸部悪性疾患（原発性肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、胸膜腫瘍 等）、良性疾患（気胸、肺嚢胞症 等）を呼吸器腫瘍センターで、感染性疾患の治療を呼吸器感染症センターで行っています。

2017年の全手術症例数は87例、原発性肺癌手術症例数は42例と前年度と比較し増加しました。当科では外科としての手術治療のみでなく呼吸器腫瘍センターとしての役割も果たしており、手術治療を選択されず抗がん剤治療や放射線治療を選択された患者様の治療も行っています。近年注目されているがん免疫治療は2016年から2017年末までに17例の治療を行いました。原発性肺癌治療は早期発見、早期治療が基本です。当院での肺癌手術治療は多くは内視鏡（胸腔鏡）を使用して手術を行いますが、進行肺癌に対しては開胸で拡大手術にも取り組んでいます。また、進行肺癌患者においては術前に抗がん剤や放射線治療を行い、腫瘍を小さくした後で手術を行うこともあります。

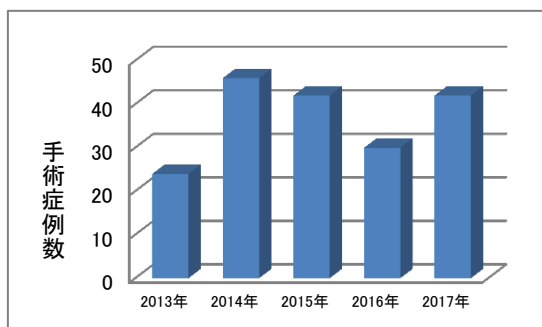
肺癌治療の進歩は目覚ましく、年々治療の適応が変化しています。当院では手術のみで肺癌治療を行うのではなく、手術治療・抗がん剤治療（分子標的薬、がん免疫治療を含む）・放射線治療を併用し、最も治療効果の高い治療を提供しています。勿論、治療方針は患者様やご家族の意見や希望を尊重して、話し合いで決定されます。

このように、当科の基本的治療方針である“患者様が受けたい治療施設となれるように、最良治療の提供”が実現できるように、臨床・研究において日々精進しております。本年もよろしく願いいたします。

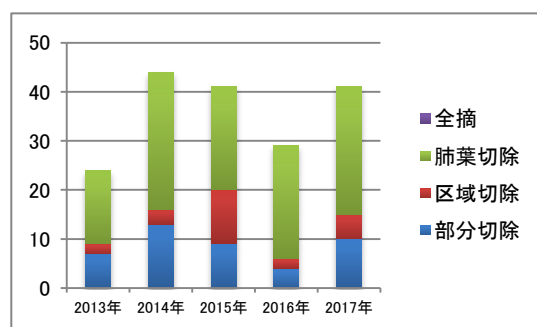
【原発性肺癌手術症例数】

年	2013	2014	2015	2016	2017
手術症例数	24	46	42	30	42

原発性肺癌手術症例数



原発性肺癌手術術式



肺癌術後生存率

